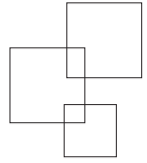


12月定例会では、11月30日から12月4日にかけて22人の議員が一般質問を行いました。紙面の都合により、1人1問の質問と答弁の要旨を紹介します。

なお、一般質問の様子は、太田市議会ホームページ「インターネット中継」からご覧いただくことができます。

また、定例会の正式な会議録は、各市立図書館、市議会ホームページ、議会事務局などで3月中旬からご覧いただくことができます。



教職員の多忙化の解消について



立憲民主党 岩瀬 僚

議員 本市の県費教職員の労働時間の把握方法と、時間外労働時間の平均について伺います。

教育部長 県教育委員会作成の在校等時間記録ファイルを使用し、公務パソコンのオン・オフにより出退勤時間を管理しています。令和4年度の小・中・義務教育学校を合わせた時間外労働時間は、1人あたり月平均37時間14分です。



議員 県教員採用試験の過去3年間の受験者数について伺います。

教育部長 令和3年度1,219人、4年度1,160人、5年度は1,051人と毎年減少傾向となっています。

議員 教職員の多忙化解消に向け

ての対応について伺います。

教育部長 県教育委員会が作成した、多忙化解消に向けた「提言R5」に基づき、各学校では、定期的な家庭訪問の廃止、式典や行事などの時間短縮、各種アンケートのICT化などを行っています。保護者には、多忙化解消の取り組みに対してご理解いただくとともに、緊急を要さない相談は勤務時間内をお願いしています。また、関係団体にも作品募集や出品方法の見直しなどの協力をお願いしています。

議員 持続可能な教育現場の未来像について、教育長の所見を伺います。

教育長 未来を生き抜く子どもたちの育成のために、多忙感を減らし、一人一人と向き合える教師力のある学校、そして、家庭や地域の支えのもと、地域に根差した安全で安心な地域力のある学校を目指していきたいと考えます。

■その他の質問

・一人親世帯を対象とした新たなフードバンク事業の展開について



市民の交通安全意識向上のためのモータースポーツ振興について



創政クラブ 高野 博善

議員 日常の運転に役立つ技術を学び習得することも、広い意味でのモータースポーツであると考えます。市民がモータースポーツに触れることで、運転技術の向上につながるとともに、車や運転が好きになり、運転に真剣に向き合うことができると考えますが、モータースポーツを取り入れたイベントの実施について、所見を伺います。



市民生活部長 令和5年6月定例会で提案いただいた運転レクチャーイベントについては、引き続き関係機関との協議を進めていきたいと考えます。また、モータースポーツを取り入れたイベントの開催については、大変興味深いものになると思いますが、開催場所な

ど課題が多く、十分な検討が必要であると考えます。

議員 イベントが実現した際には、市の主催または協力イベントとして開催することが可能か、所見を伺います。

市民生活部長 交通安全意識の向上などを目的としたものであれば、市の主催イベントとして実施可能であると考えます。レクリエーション要素の高い、モータースポーツの紹介などを中心としたイベントの場合には、内容により、共催や後援が可能か判断する必要があると考えます。

議員 モータースポーツを取り入れたイベントの開催について、市長の所見を伺います。

市長 イベントを実施できる場所の確保が課題となります。またスピードをどのくらい出すのかなど、内容も含め、提案いただければと思います。

■その他の質問

・「新田義貞公挙兵700年祭」に向けての取り組みについて



LGBT理解増進法の成立を受けての本市における対応について



参政党 仁藤 すぐる

議員 LGBT理解増進法に関連する条例の制定について、進捗状況を伺います。

市民生活部長 令和6年3月定例会への議案提出に向けて、パブリックコメントなどの手続きを進めています。

議員 LGBTに関する法整備を行った諸外国における現状の把握や、トラブルを未然に防ぐ方策について伺います。

市民生活部長 諸外国でさまざまな問題が生じていることは把握しています。未然に防ぐ方策としては、正しい知識の習得や、啓蒙啓発が有効と考えています。

議員 小中学校の児童生徒へのLGBTに関する教育について伺います。

教育部長 LGBTについては、県の人権重要課題11項目に含まれており、人権教育として、差別や偏見のない社会を築こうとする態度を育成しています。

議員 LGBT教育の今後の方針について、教育長の所見を伺います。

教育部長 LGBTに関わる差別や偏見が起きないように人権教育を徹底するとともに、よき理解者、相談者となれるような学校づくりを目指していきたいと考えます。また、制服やトイレの利用など、学校生活を送りやすい環境整備も併せて進めていきたいと思います。

議員 LGBT理解増進法の施行や条例制定により、さまざまなリスクや懸念があると考えますが、本市の今後の方針について、市長の所見を伺います。

市長 市民の意見を十分に聞き、条例を制定していきたいと考えます。さまざまなところで齟齬が起きていることについては十分注意し、正しい知識や理解の上で、互いに尊重し合えるような関係を作り上げていくことが重要だと考えます。



少子化対策について



太田クラブ 八長 孝之

議員 少子化という課題と今後の子育て施策に対する所見を伺います。

福祉子ども部長 出会いから結婚出産までトータルでの支援が必要であり、既存の子育て世帯支援に加え、新たな事業展開を検討したいと考えています。

議員 本市において不妊治療費助成を受けている人数について伺います。

健康医療部長 令和2年度345人、3年度325人、4年度129人です。

議員 4年度の助成者数が減少している理由について伺います。

健康医療部長 昨年度より一部の先進医療が保険適用になったことが原因と考えます。本市では保険適用外の治療費を対象に引き続き費用助成を行っています。

議員 少子化による人口減少について、また、未来の太田市をどのように描いているのか、市長の所見を伺います。

市長 われわれは子育て対策を進めていますが、新しい事業を始めるには、財源の確保が重要だと思いま

た、市内に住む外国人の教養を高め、日本人と同じように社会活動ができるよう支援することが非常に重要だと思えます。来年度から日本語学習の場を充実させたいと考えており、外国人の子どもたちが希望の進路を選択できるような環境づくりを行い、日本人も外国人も互いに尊重し合えるような社会を目指したいと思えます。



議員 不妊治療の費用負担軽減策などの実施について、市長に伺います。

市長 自治体間で不妊治療の受けやすさに差が生じるのは好ましくないと考えます。国が責任を持って取り組むべきであり、不妊治療は少子化対策の大きなテーマであることを伝えたいと思えます。